

「国立台湾大学スプリングプログラム派遣参加報告書」

京都大学文学部・1年 中島大知

本プログラムは平日の午前中に中国語の授業が、午後に台湾文化の授業があった。また、授業後や土曜日にフィールドワークを行った。中国語で中国語を学ぶことは非常に刺激的で、微妙なニュアンスの違いを感じ取ることができ理解が深まった。さらに「とにかく話す」ことで脳に定着しやすかった。やはり語学はとにかく使うことが上達の秘訣だと実感したので今後の語学学習でも意識的に取り入れたいと思う。台湾文化の授業は台湾史に興味のある私にとって有意義な時間で、特に台湾人の信仰は面白かった。台湾は漢民族の仏教信仰がメインであるが祖先信仰や道教などその他の影響も受けている。さらにそれらが寺院や廟など一つの施設に混在していることは日本の神仏習合みたいで面白い。こういったアクチュアルな文化は自ら足を運び現地の人から教わるのが大切だと感じた。授業やフィールドワークのガイドは英語で行われることが多かったのだが、私の英語力のなさ故にすべてを理解することはできず、もったいなかった。ここでも語学の重要性を痛感した。私は東アジアの近代史を専攻するつもりであるが、その理解のためにも英語・中国語の習得は必須であり、学部二年生からは語学学習に力を入れたい。

台湾にいる間、課外では228事件について知るために228記念館や博物館で(官製の)パネルをみて台湾がどのような見解を持っているのか、どのような見解に導きたいのかを学びに行った。国民党の残虐行為や当時の人の証言が豊富であることから私の感覚としてはかなり情報がオープンになってきているのだろう。陳水扁が情報のオープン化にかじを切って以来社会の風潮が変わってきているのだろう。これに対する社会特に外省人や本省人の反応について疑問を抱いた。これも上に述べた通り台湾人に直接聞くべきだった。ここにも後悔が残る。

また、ファイナルプレゼンテーションでは台湾の地名の変遷について調べて発表した。原住民、オランダ人、漢民族、日本人の時代があった台湾はそれぞれの言葉の影響を受け歴史的に変化していることが分かった。この発表を通じて地理学にも興味を持つことができた。またほかの参加者の発表からも自分以外の人がどんなことに興味を持ちどのように考えるのかについて触れ、刺激を受けた。

最後になるが東アジア政治に興味をもつ者、中国語音声学を研究する者など今回知り合うことができたメンバーは自分の財産である。これからもつながりを持って情報共有していきたいしお互いに刺激しあいたいと思う。